各　　位

2025年12月16日

会社名　　グローバルセキュリティエキスパート株式会社
代表者名　代表取締役社長　　青柳　史郎
（コード番号：4417 東証グロース）
問合せ先　代表取締役副社長　　原　　伸一

2026年3月期 第2四半期決算に関する質疑応答集

2026年３月期 第２四半期決算を2025年10月30日に公表しましたが、その後、投資家様より多くいただいたご質問と、その回答につきまして、以下のとおりお知らせいたします。

Q1. 第2四半期の売上高と営業利益の進捗について、GSXの評価と、通期業績予想（売上高110億円、営業利益22億円）の達成可能性について見解を教えてください。

売上高、営業利益ともに計画通りの進捗だと評価しております。
例年、当社の売上高は、第1四半期が少なめで、第2四半期から第4四半期にかけて上がっていきます。当第2四半期の通期業績予想に対する進捗率は直近２事業年度と同等の約45％でした。
営業利益についても、直近２事業年度と同様の推移をしておりますので、通期業績予想の達成に向けて順調に進んでいると認識しております。

Q2. GSXのメインターゲットは中小企業と認識していますが、中小企業はセキュリティ対策にそれほど費用をかけられないのではないでしょうか。

当社は準大手・中堅・中小企業をターゲットとしておりますが、現状のお客様は、準大手・中堅企業が８割以上を占めています。
準大手・中堅企業は、国や政府、大企業やサプライチェーンの上流などから、セキュリティ対策を強く求められているケースが多いのが実態です。また、大企業のセキュリティインシデントはニュースになるので目立ちますが、実態は、準大手・中堅企業でも、日本全国で相当数のセキュリティインシデントが起きており、当社に毎日のようにインシデント対応のご依頼をいただいております。
準大手・中堅企業は、かけられる費用の差はあれど、大企業同等に近しいセキュリティ対策を求められており、当社がこの数年で大きく売上成長している要因です。
（当社が定義する準大手・中堅企業とは、従業員数500名～１万人程度の企業規模を指します。）
一方、中小企業に対しては、まだサービス提供が追いついていない状況ですが、中小企業にちょうど良いSaaS型サービス（セキュリティコンサルティング・セキュリティ教育）を提供できるように準備を進めております。

Q3.　国や政府もセキュリティ対策について様々言及していますが、GSXにとって追い風なのでしょうか。

強い追い風であり、日本全国の企業のセキュリティ対策の気運は確実に上がっていると考えております。
日々、日本全国でセキュリティインシデントが発生していますが、その対応依頼を多くいただいています。これは、日本全国の企業のセキュリティ対策に関する意識が高くなっているために、すぐに当社にご連絡いただくケースが増えたと認識しております。
あわせて、社内にセキュリティ人材を増やしたいというニーズも一気に高まっていると感じております。

Q4.　10月をピークに株価が下落していますが、いまの株価についてGSXの見解を教えてください。

セキュリティ関連銘柄への注目の高まりと、グロース市場全体への資金流入に起因したとみられる10月の大幅上昇以降、約２か月（本日時点）で非常に下落幅が大きい状況だと認識しております。
セキュリティ市場での当社独自のポジショニング、また、景気に左右されにくい当社の事業構造等を踏まえると、必要以上にマーケットの動きに反応しているのではないかと歯がゆさを覚えるとともに、株主の皆様に対して申し訳ない気持ちになります。
もっとも、株価はマーケットからの評価であることを理解しておりますので、当社としましては着実に、かつ、より高い成長を継続することで、その評価を高めていくことが重要であると考えております。
引き続き、株主・投資家の皆様との積極的な対話に努めてまいります。